

1. 会社概要

2. 事業内容 (運輸サービスセグメント)

3. 事業内容 (不動産・ホテルセグメント)

4. 事業内容 (その他のセグメント)

5. データ

6. その他

会社概要 (2020年4月1日現在)

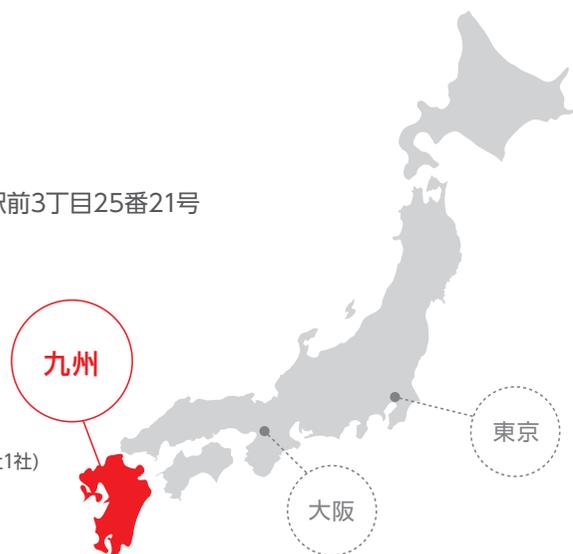
設立 1987年4月1日

本社 福岡市博多区博多駅前3丁目25番21号

資本金 160億円

発行済株式数 157,301,600株

子会社・関連会社 子会社 54社
(うち連結子会社44社)
関連会社 5社
(うち持分法適用関連会社1社)



連結セグメント別の主な事業内容

運輸サービス

鉄道事業、バス事業、船舶事業等

- ・連結子会社 (5社)
- 豊肥本線高速鉄道保有 (株)、JR九州バス (株)、JR九州高速船 (株)、JR九州サービスサポート (株)、JR九州リネン (株)



建設

建設業、車両機械設備工事業、電気工事業等

- ・連結子会社 (6社)
- 九鉄工業 (株)、三軌建設 (株)、JR九州エンジニアリング (株)、JR九州電気システム (株)、JR九州コンサルタンツ (株)、JR九州住宅 (株)



不動産・ホテル

不動産賃貸業 (商業施設、オフィス、マンション等)、不動産販売業 (分譲マンション)、ホテル業、駐車場運営、シニア事業等

- ・連結子会社 (18社)
- JR九州駅ビルホールディングス (株)、(株)JR博多シティ、(株)JR小倉シティ、(株)JR長崎シティ、(株)JR大分シティ、(株)JR熊本シティ、(株)JR鹿児島シティ、(株)JR宮崎シティ、JR九州ビルマネジメント (株)、JR Kyushu Capital Management (Thailand) Co., Ltd.、JR九州ホテルズアンドリゾーツホールディングス (株)、JR九州ハウステンボスホテル (株)、JR九州ホテルズ (株)、JR九州ステーションホテル小倉 (株)、(株)おおよま夢工房、JR Kyushu Business Development (Thailand) Co., Ltd.、JR九州レンタカー&パーキング (株)、JR九州シニアライフサポート (株)



流通・外食

小売業、飲食業、農業

- ・連結子会社 (8社)
- JR九州リテール (株)、JR九州ドラッグイレブン (株)※、JR九州フードサービス (株)、JR九州ファーストフーズ (株)、(株)トランドール、(株)萬坊、上海JR餐飲管理有限公司、JR九州ファーム (株)

※JR九州ドラッグイレブン (株) は、2020年5月28日の一部株式譲渡に伴い持分法適用関連会社となりました。



その他

建設機械販売・レンタル、広告業、ゴルフ場経営等

- ・連結子会社 (7社)
- キャタピラー九州 (株)、JR九州エージェンシー (株)、JR九州リゾート開発 (株)、JR九州商事 (株)、JR九州システムソリューションズ (株)、JR九州ライフサービス (株)、JR九州ビジネスパートナーズ (株)
- ・持分法適用関連会社 (1社)
- JR九州セコム (株)



1. 会社概要

2. 事業内容 (運輸サービスセグメント)

3. 事業内容 (不動産・ホテルセグメント)

4. 事業内容 (その他のセグメント)

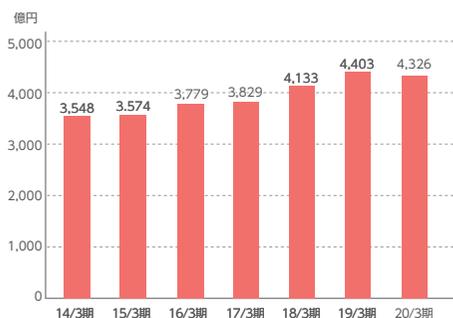
5. データ

6. その他

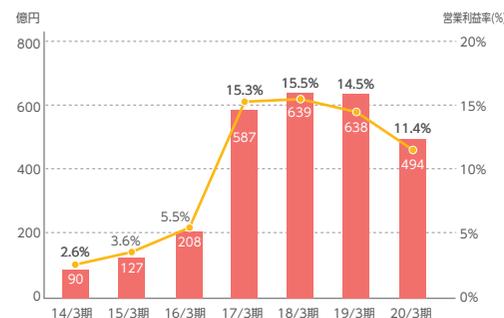
連結決算ハイライト

ハイライト (連結)

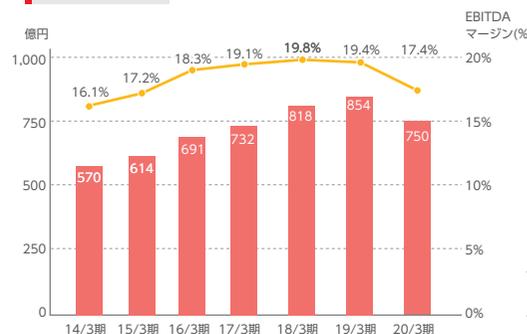
営業収益



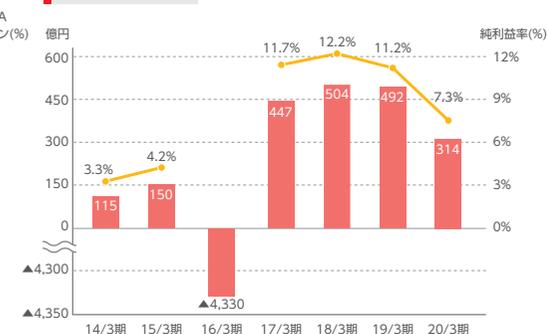
営業利益



EBITDA(**)



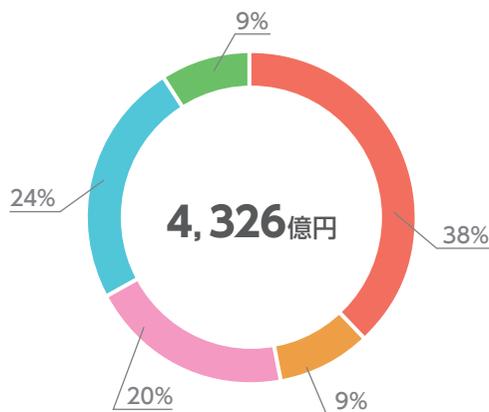
当期純利益



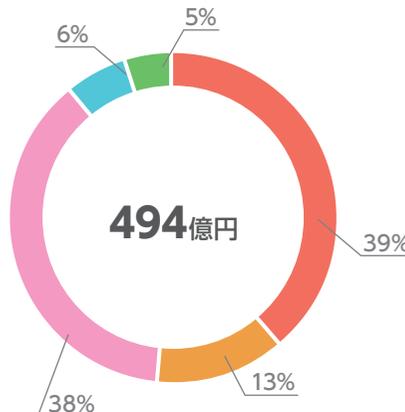
※ EBITDA=営業利益+減価償却費+経営安定基金運用収益(セグメント間取引消去後、転貸を目的としたリース資産に係るものを除く)
EBITDAマージン=EBITDA÷営業収益
※ 20/3期の業績は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、鉄道旅客運輸収入の大幅な減少等の影響を受けております。

収益構造 (2020年3月期・連結)

営業収益 (外部売上高)

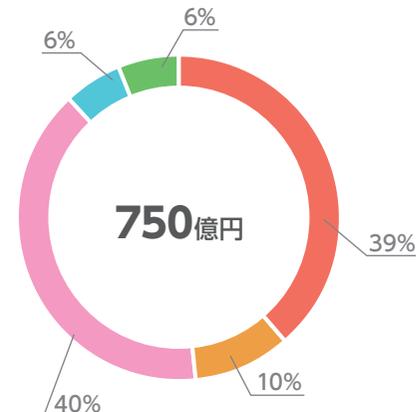


営業利益



EBITDA

EBITDA=営業利益+減価償却費
(セグメント間取引消去後、転貸を目的としたリース資産に係るものを除く)



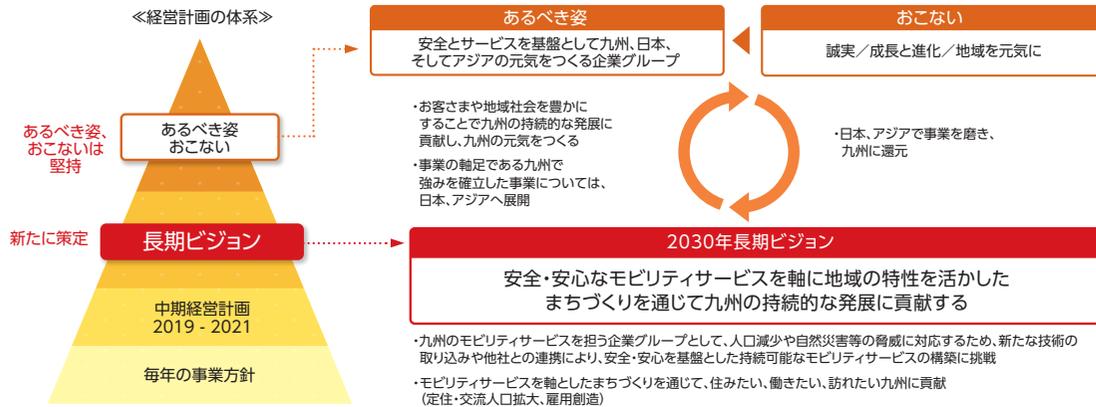
■ 運輸サービス ■ 建設 ■ 不動産・ホテル ■ 流通・外食 ■ その他

※営業利益、EBITDAのセグメント割合は、セグメント間取引消去前の数値を基に算出
※%は小数第1位四捨五入(合計が100%にならない場合あり)

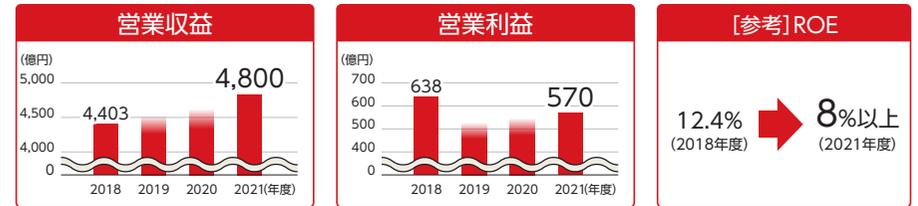
経営計画

経営計画の体系と2030年長期ビジョン

経営環境が大きく変化していく中で、JR九州グループの「あるべき姿」を実現するため、新たに「2030年長期ビジョン」を策定しました。

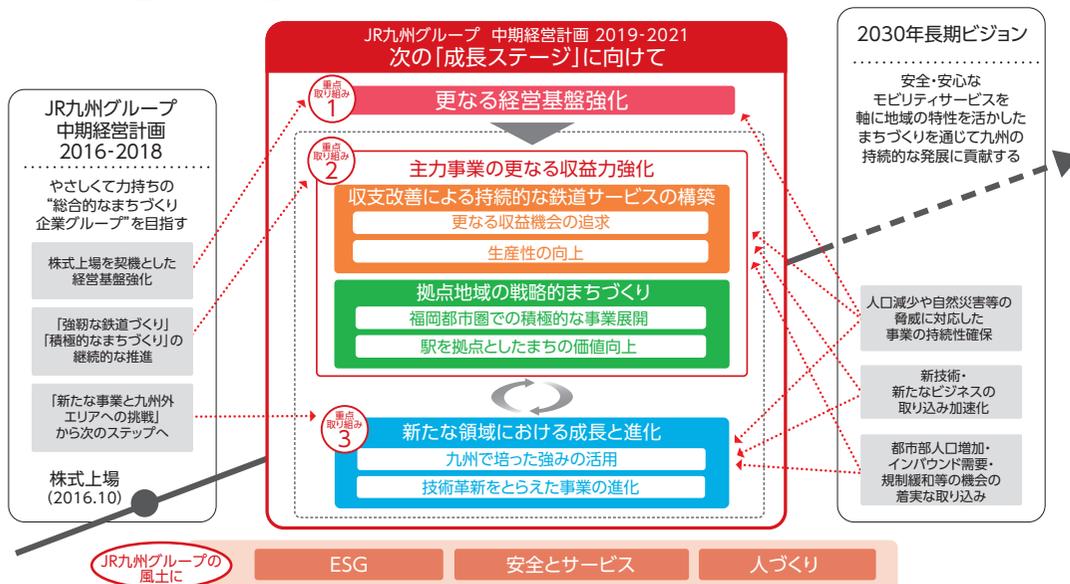


経営数値目標(連結) ※1



「JR九州グループ 中期経営計画 2019-2021」の位置づけと重点取り組み

前中期経営計画からの課題および長期ビジョンからのバックキャストを踏まえ、本中期経営計画では、以下の3点を重点取り組みと位置づけます。



単位: 億円、()内は対2018年度増減額

| セグメント名 | 営業収益※2 | | 営業利益※2 | | 主な増減要因 |
|---------|--------|-------------|--------|-----------|---|
| | 2018年度 | 2021年度 | 2018年度 | 2021年度 | |
| 運輸サービス | 1,818 | 1,840 (+21) | 274 | 210 (▲64) | 鉄道運輸収入の増加により増収 税制特例措置廃止、減価償却費の増加等に伴う 費用の増加により減益 |
| 建設 | 938 | 980 (+41) | 62 | 60 (▲2) | 新幹線関連工事等により増収 人件費等の費用の増加により減益 |
| 不動産・ホテル | 900 | 1,130(+229) | 254 | 240 (▲14) | 熊本駅ビル・宮崎駅ビルの開業により増収 収益・費用計上区分見直しに伴う 費用の増加により減益 |
| 流通・外食 | 1,040 | 1,150(+109) | 34 | 40 (+5) | 新規出店により増収増益 |
| その他 | 726 | 760 (+33) | 22 | 25 (+2) | グループ外への売上拡大等により増収増益 |
| 合計 | 4,403 | 4,800(+396) | 638 | 570 (▲68) | |

※1 2018年度数値は、新しいセグメント区分に組み替えたもの(P15参照)
※2 セグメントの営業収益、営業利益については、セグメント間取引消去前